

新農薬の紹介

汎用性殺菌剤ピコキシストロビンの特長

日本農薬株式会社

西村 昭 (にしむら あきら)

はじめに

ピコキシストロビン (picoxystrobin) は、スイスのシンジェンタ社により見いだされたストロビルリン系の汎用性殺菌剤である。2006年に米国デュポン社に譲渡され、デュポン社により北米およびアジア諸国のムギ、南米のダイズ等への開発が行われ、2012年に米国で登録された(海外商標: Acanto®)。日本においては日本農薬株式会社が開発・販売権をデュポン社より取得し、2011年からNNF-1120フロアブル(ピコキシストロビン22.5%)として(一社)日本植物防疫協会を通じた委託試験を開始し、2016年6月に野菜・畑作分野において「メジャーフロアブル」として農薬登録を取得し、芝分野では「ハイジャンプフロアブル」として登録申請中である。

本稿では2016年7月に上市した「メジャーフロアブル」の特長を中心に概要を紹介する。

【有効成分と性状】

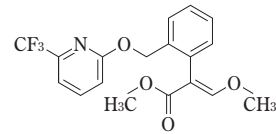
一般名: ピコキシストロビン (picoxystrobin)

CAS登録番号: 117428-22-5

化学名 (IUPAC): メチル=(2E)-3-メトキシ-2-[2-(6-

(トリフルオロメチル)-2-ピリジルオキシメチル]フェニル]アクリラート

構造式:



分子式: C₁₈H₁₆F₃NO₄

分子量: 367.3

性状: クリーム色固体

水溶解度: 3.1 × 10⁻³ g/l (20°C)

オクタノール/水分分配係数:

log Pow = 3.68 (20°C)

融点: 75.0°C

蒸気圧: 5.5 × 10⁻⁶ Pa (20°C)

【作用機構】

植物病原糸状菌の細胞内ミトコンドリアにおける呼吸鎖電子伝達系 Complex III を阻害 (FRACコード: 11)。



250 ml ボトル

表-1

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピコキシストロビンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	株腐病	2,000 倍	100 ~ 300 l/10 a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	べと病 黒斑病						
レタス 非結球レタス	べと病 菌核病 灰色かび病 すそ枯病						
たまねぎ	べと病 灰色かび病 灰色腐敗病			収穫前日まで			
ねぎ	さび病 べと病 黒斑病						